

“Smoke〜” -Work Note1 161221

全体イメージの覚え書き 1 -161221

いくつもの煙が立ち上っている、時に揺らめき、重なり、渦となり広がり、また離れ、中空を、静かに、激しく舞い、彼方へと消えては、なおも。そこここに幾本の筋となって立ち上っていく煙。その”名状しがたき煙の風景”が、今回の目指すところである。
これは DA・M 3 月公演「すべては突然やってくる」のあとの風景として構想される。

ちなみに、今回参照された音楽 ♪Smoke gets in your eyes の歌詞を解釈を加えつつ引用してみる。
「恋（怒り）の炎が燃え上がるとき、その煙でなにも見えなくなる
恋（怒り）の炎が消えたとき、その煙が目にしみる・・・」

白く黒い煙は、そこにあっただろう多色の生の切れ切れを浮き出しては消していく。
煙は、個的な思いをそこに投影しつつ、理不尽な社会への狼煙となって舞い上がる。

今回の舞台では、身体や声、あるいは行為の「煙化」が作業になる――

①作為や表現意識の消去、
煙は原因（燃焼）の結果である。まずは、その＜原因＝火元＞をしっかりと意識しつつ、その結果としての＜身体・動き＞においては、表現者としての作為性を消していく。

煙は空気が動けば、いつでも流されていく。が、空気の流れがなくなれば、またまっすぐ立ち上る。
煙の動きは他動であり、重力の中にある。

②他動の動きと主動の動き
動かせるところは手足胴体首であり、それを意識的に他動化、動かされていく。
が同時に、それに抗う主体としての意志を強く見せる動きへと時折切り替えては、また他動にする。
ただし、ここで動きというものの中には、静止も含まれる。静止という動き。

③“日常の動き”、あるいは“等身大の動き”の＜抽象化＝煙化＞とそのリアリティー
日常の動作は、各部位を動かして成り立つ。つまり各部位を上げる、揺する、振る、ねじる、跳ね上げる、曲げる、落とす・・・・・・こうした動きの速度や向き、各部の関連性を意識していくことでここでの動きが見出されていくだろう。
が同時に、その動きの抽象性がただ動きにとどまることは避けねばならない。
煙は、身近なタバコから、戦火、爆発、あるいは火葬まで、そこにはさまざまな感情や思いが込められる。
動きの抽象性の中に、その煙の原因としてのリアリティーが見出していきたい。

④動きの流れ＝エネルギーの流れ
実際の煙は、常に多様な流れが“生成しつつある”。スーと上昇したり、モクモクと沸いたり、フンワリしたり。つまり見るべきところは、その動き生んでいるあるエネルギーの流れであり、そのエネルギーの流れを身体の内、あるいは外に置いてみることによって他動性がより見えてくるのではないか。
このエネルギーの流れ、それが煙のリアリティーとなる

作業1 動きと声と個人モチーフ

これまでのリハーサルにて、抽象的な動き、長い声、そして12月からは言葉（by 福田）を試してきた。そこでは、まず、自らの体と声に改めての関心を向け、そこに等身大の身体性を見出すことから始めてきた。この作業を、来年に向けてさらに具体的な準備へと進めていきたい。そこで次回25日のリハでは次の準備をして、来年からのリハの見通しをたてたい。

1) 抽象的動きー“アブストラクト・モチーフ”として3つの動き

これまで“アブストラクト・ムーブメント”と呼んで、振付や身振り（意味）を排しながら、身体自身のより自由な動きを見出してきた。その作業を維持しつつも、この一連の動きの中に、ある特徴的な動きを意識的に反復してみる。その特徴的な動きを、ここで“アブストラクト・モチーフ”と呼ぶ。

今回の舞台は、この居方なり動きが、適時に反復、発展され、あるいは組み合わせられながら舞台全体を、空間的にも、時間的にも埋めていくことになる。それを今後検討しつつ、その発展や他者との共有等、進めていく。

まずは、その＜アブストラクト・モチーフ＞を各自3つ用意し、その動きにそれぞれタイトルをつけ簡単な説明を加えてください。——「いやいや」～両肘をはって、身体を振る／「おちるリンゴ」～ふっと体を静止させ、頭をコトンと落とす／「モクモク」～煙がモクモク湧き上がるように肢体各部を、下方から上方へと、小刻みに、あるいはゆったりと、跳ね上げ続ける。／「足が止まらない」～静止させた体で、タンゴダンスの足の振り上げを様々に反復

2) 声のイメージ化

同様に声にも多様な息づかい（動き）がある。ため息、歓喜、叫び、祈り、嗚咽、呐喊、あるいは赤子の鳴き声を聞くとある勢いのリズムがあったりする。風の音、波の音、遠くの轟音、警報音、ヘリコプターの音など、体で共振出来る音も声になる・・・人の想像力や心に訴えていく声がある。

今回の舞台では声は主要な表現要素になる。

まずは、3つの＜声＞を用意ください。

音程、あるいはリズム・強さ・ノイズ感など多様な声を出せるが、そこに自分のリアリティーを見出しながら3つの声を用意して、その一つ一つに名前と簡単な説明をつける。——「こごもる声」（低温・不安定に揺れる）／「夜空に突き刺す声」（高音に圧をかけながら、伸ばしていく）／「ぬくもり解ける声」（楽に気持ちいい声、身体感覚を開きながら）等 ※当日録音しておきます。

3) “パーソナル・モチーフ”

立ち上る煙に何をみるか？ あるいはその煙の中で何が起きているのか？ 等、「煙」をモチーフにする行為、それは一人での行為であったり、2、3人で行われる行為であったり、その行為について想像、考えてみる。これは、上記の抽象的なものではなくより具体的な行為にあたる。このパーソナル・モチーフについて、1つか2つ、まず用意ください。これもタイトルと簡単な説明（行為内容と意味）を加えてください。

——「白布」～白布を頭上高く振りながら、スキップする。その意味するところは、敵兵に向けての必死の降参、または園児の不揃いのピクニックか？／「手探り」～手のひらを開き、両手を前に、上下、左右に突き出しながら、歩く。文字通り、何かを探している、あるいは闇を手探りで進む。

以上